

平成21年12月28日
総務省消防庁

件名

暖房器具からの火災を防ごう！

標記の件について次のとおり情報提供がありましたので、参考配布いたします。

1 【消防本部名】

東京消防庁(東京都)

2 【発生日時】

平成20年中

3 【発生場所】

東京消防庁管内

4 【事案の概要】

別紙 のとおり

5 【そ の 他】

本事案の詳細に係るお問い合わせは、各消防本部へお願いします。

(担当)

消防庁総務課広報係

担当：御手洗係長・藤岡(拓)事務官

電話：03-5253-7521

FAX：03-5253-7531



平成21年12月25日

暖房器具からの火災を防ごう！

昨日、荒川区荒川三丁目の店舗併用住宅で、2人が死亡し、4人がけがをする火災が発生しました。現在、火災原因を調査しているところですが、この火災の発生に暖房器具が起因する可能性もあることから、東京消防庁では、暖房器具に起因した火災への注意を呼びかけています。

東京消防庁管内で、平成20年中に発生した火災5,763件のうち暖房器具に関連する火災は197件で、全体の3.4%を占めています。器具別にみると、電気ストーブ等による火災が113件(前年比24件増加)、石油ストーブ等による火災が38件(前年比4件増加)、ガスストーブ等による火災が13件(前年比同)、ハロゲンヒータによる火災が33件(前年比16件増加)でした。そのほとんどが誤った取扱いによるもので、「電気ストーブをテーブルの下に置き、こたつ代わりに使用した。」「電気ストーブの上に干していた洗濯物等の可燃物が落下した。」「石油ストーブを使用中に給油した。」などがありました。

暖房器具からの火災を防ぐためには、まず、これらの火災の実態を知るとともに、取扱説明書などをよく読み、器具の正しい取扱いや管理をすることが大切です。

詳細は、添付資料をご覧ください。

問い合わせ先

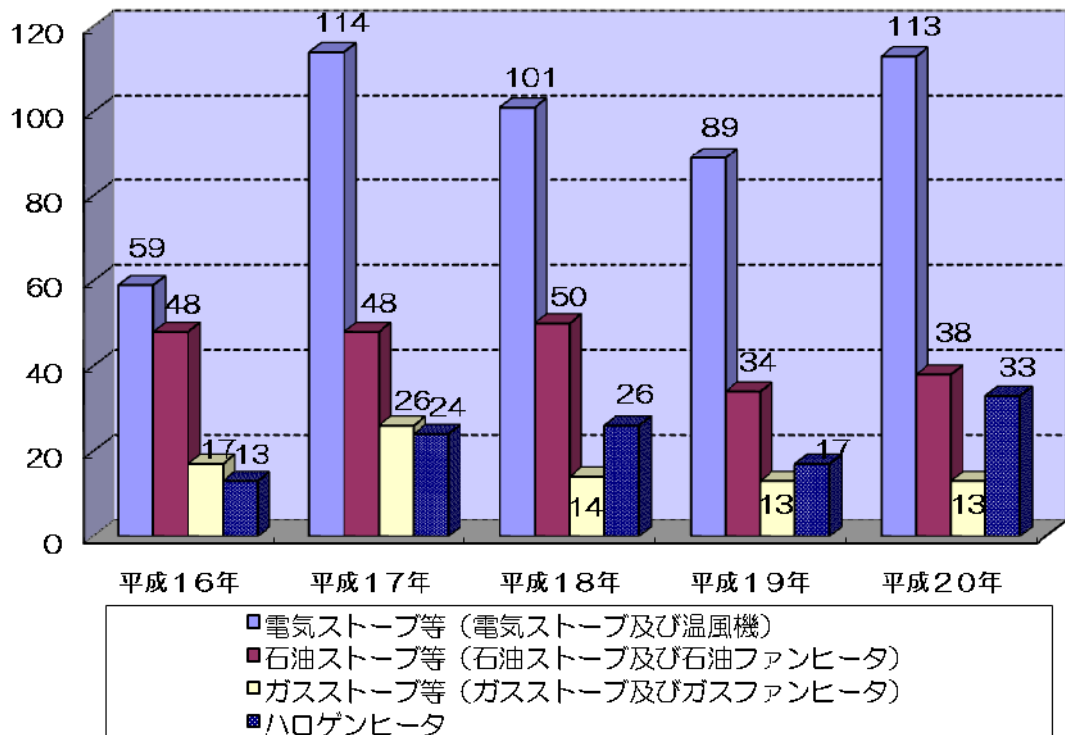
（東京消防庁（代） 電話 3212 - 2111）
（広報課報道係 内線 2345～2350）

1 暖房器具を出火要因とする火災の発生状況

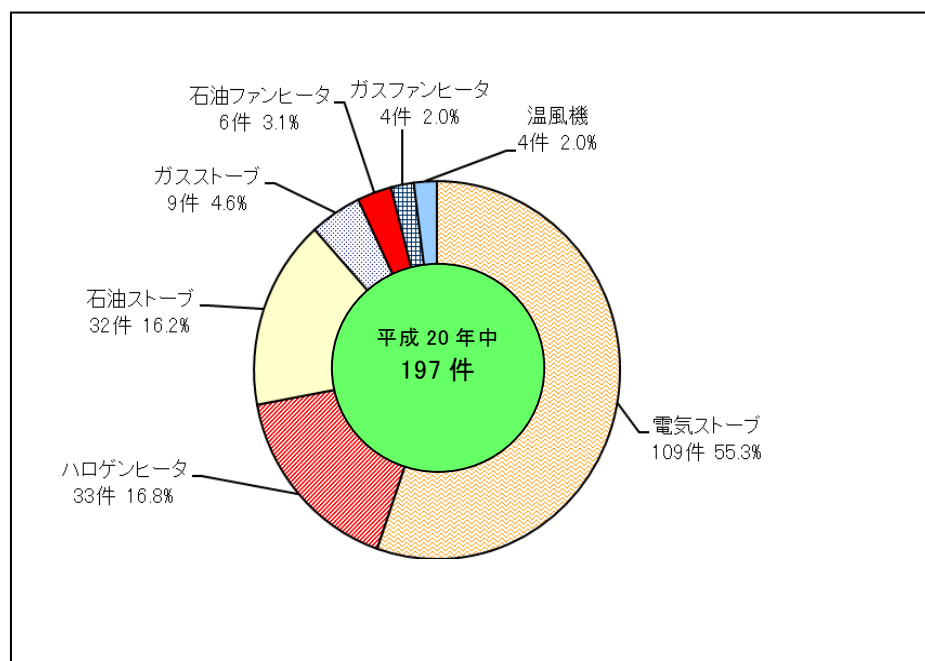
暖房器具による火災の発生状況（グラフ1、2）をみると、電気ストーブ等が最も多くなっています。

電気を熱源とする暖房器具は、取扱いや維持管理が容易であること、ガスや石油などの燃料を使用しないため空気を汚さない、給油の手間がないなどのクリーンなイメージから、手軽な暖房器具として広く使用されていますが、使用の際には、周囲や上部の可燃物、機器やコードの損傷等への注意が必要です。

グラフ1 主な暖房器具による火災の発生状況（過去5年間）



グラフ2 主な暖房器具による火災の発生状況（平成20年中）



2 暖房器具の出火に至った経過

平成20年中の主な暖房器具の発火源と経過（表1）をみると、機器的要因よりも人的要因が圧倒的に多くなっています。「可燃物が接触する」が107件と最も多く、次いで「可燃物が落下する」が20件、「引火する」が14件、「使用中給油する」が7件などとなっています。使い慣れた器具でも常に注意する意識をもつことが大切です。

表1 主な暖房器具の発火源と経過（平成20年中）

	可燃物が接触する	可燃物が落下する	引火する	使用中給油する	誤ってスイッチが入る（入れる）	電線が短絡する	可燃物を火源上に置く	燃料を誤る	その他	合計
電気ストーブ	78	12	0	0	2	1	2	0	14	109
ハロゲンヒータ	18	2	0	0	1	2	1	0	9	33
石油ストーブ	4	5	6	6	0	0	1	1	9	32
ガスストーブ	7	1	0	0	0	0	0	0	1	9
石油ファンヒータ	0	0	4	1	0	0	0	0	1	6
ガスファンヒータ	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4
温風機	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
合計	107	20	14	7	3	3	4	1	38	197

3 ハロゲンヒータによる火災の特徴

ハロゲンヒータは比較的安価で、熱効率がよく小型、軽量、静音、空気を汚さないなどの特徴により暖房器具として急速に普及しました。しかし、ハロゲンヒータの火災は、平成20年には33件発生しており、「可燃物が接触する」、「可燃物が落下する」など布団や衣類が接触することにより出火しているため注意が必要です。

4 暖房器具からの火災を防ぐポイント

(1) 衣類などの可燃物の近くで使用しない

ア ストーブの上で洗濯物を乾燥すると、落下した時、火災となるおそれがあるのでやめましょう。

イ カーテンや衣類・布団・ふすまなどのそばでは使用しないようにしましょう。



(2) エアゾール缶などをストーブ・ファンヒータの上やそばには置かない

エアゾール缶などをストーブやファンヒータなどの暖房器具の上や近くに放置していると、放射熱や熱伝導で過熱され、缶の内圧が上昇して破裂し、爆発するおそれがあるので絶対にやめましょう。

(3) 寝るときや外出するときには必ず火を消す

ア 布団などが接触して火災となるおそれがあるので、寝るときや外出するときは暖房器具等のスイッチを切る習慣を身につけましょう。

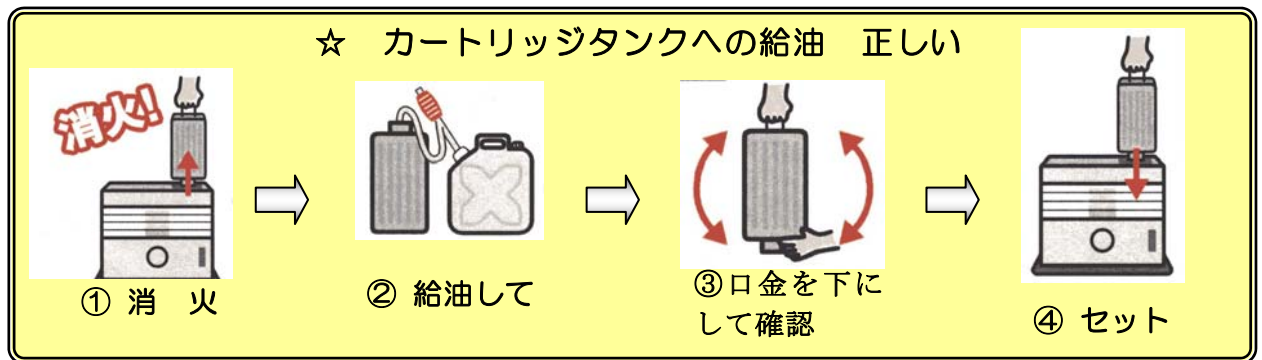
イ 電気ストーブ・石油ファンヒータは、長期間使用しないときには、誤ってスイッチが入ることを防ぐためにコンセントを抜きましょう。また、収納するときは、電池を抜きましょう。

(4) 石油ストーブ等のカートリッジタンクの口金は確実に締まったことを確認してからセットする

ア 給油時は必ず消火し、火が消えたことを確かめてから給油しましょう。

イ カートリッジタンクへの給油は、石油ストーブ等とは別の場所・火気のない場所で行いましょう。

ウ 火気のないところで一度カートリッジタンクをひっくり返し、カートリッジタンクから灯油が漏れないことを確認してからセットしましょう。また、漏れてしまった油は、よく拭き取りましょう。



5 一酸化炭素中毒の防止対策

暖房器具による一酸化炭素中毒事故が発生しています。一酸化炭素は、石油やガス、炭などの不完全燃焼により発生しますが、無色、無臭のため、発生しても気がつきにくく、また、血液中のヘモグロビンと非常に結びつきやすいことから、少ない量を吸入しても血液の酸素運動能力が著しく損なわれ、酸素欠乏状態となり、最悪の場合には死に至ることもあります。

一酸化炭素中毒は、十分な換気を行うことで未然に防止することができます。室内において石油ストーブやガス器具などを使用する際は、換気に十分注意してください。